



自後歌祀

下

特別
イ 4
3163
99(2)



葉
14
3163
99(2)



自撰新後下

文内卿 くまの とも

新
古
文

かぶら〜なびら〜里の音乃ららよ

あは〜を〜し〜縁まら〜さ〜い〜る〜

心〜を〜入〜る〜る〜る〜宿の〜ひ〜ま
人〜を〜み〜え〜の〜林の〜ふ〜ら〜と〜い〜ふ〜よ〜ら〜ら〜ら〜ら
お〜と〜あ〜く〜ら〜ひ〜い〜お〜も〜う〜き〜ぬ〜ら〜ひ〜な〜さ〜い〜も〜い〜と
ち〜り〜し〜の〜う〜い〜が〜あ〜ま〜し〜志の〜く〜ま〜り〜の〜ゆ〜ら〜ら〜ら
よ〜桃〜ん〜ど〜ろ〜め〜く〜な〜り〜ゆ〜く〜お〜も〜う〜ら〜ら〜ら
の〜こ〜ら〜い〜ら〜ら〜ら〜を〜ゆ〜ん〜や〜ま〜い〜と〜の〜作〜ら〜と
ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら

自撰新

下

あはれのうゝきんび乃あはれ

日秋上 月とみだれまはらん地とじりあめ

らまはらくも乃まゑのこい人

じりあめらさるるこいさ月さあまのこい

こいさ月とまはらり乃後ありまゑあてお

も一海くまらまはら

日下 海らりまゑあめあまのまゑあめ

海らりまゑあめあまのまゑあめ

あはれあはれなり

又あはれよはらり人らあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれ

日 海らりまゑあめあまのまゑあめ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれ

日冬 かつあはれあはれあはれあはれあはれ

ちりあはれあはれあはれあはれあはれ

冬乃あはれあはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

日秋下 おおあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

地へささるる一軒ありてあり

あぬ静のいしる道とていふまじあり

むきふらり乃山の井一なるあり

網涼のこころありおのころとぬきあり

あふ静よあふ静秋涼とふんあり

日 行海とて乃月よう思とてなる流

ねらつてくもあつてぬく静よ

あつて大よとの月乃ひらりさやよ静ふくゆ

まよよんまむ静あつてうらあつてまむくあり

まむく静はくくと思とてこの月乃たりあつて松の

風よのあつて静よあつてまむくまのいふいふ

まむく静はくくと思とてこの月乃たりあつて松の

あつて大よとの月乃ひらりさやよ静ふくゆ

まよよんまむ静あつてうらあつてまむくあり

まむく静はくくと思とてこの月乃たりあつて松の

あつて大よとの月乃ひらりさやよ静ふくゆ

まよよんまむ静あつてうらあつてまむくあり

まむく静はくくと思とてこの月乃たりあつて松の

あつて大よとの月乃ひらりさやよ静ふくゆ

まよよんまむ静あつてうらあつてまむくあり

まむく静はくくと思とてこの月乃たりあつて松の

あつて大よとの月乃ひらりさやよ静ふくゆ

まよよんまむ静あつてうらあつてまむくあり

まむく静はくくと思とてこの月乃たりあつて松の

あつて大よとの月乃ひらりさやよ静ふくゆ

まよよんまむ静あつてうらあつてまむくあり

とくちやまきくわりはるなり

日冬

こ徳とめて神うららぬきもあ

ころまじりの高き松たけ

まん

あまよらうくもゆりらるぬらみ

このまじりよあまあふさつあ

つて神うららきもあこくぬとあ

かこもありこのことあなまらあ

いりあはらうやまもあのみ

まこの句思ひ入くゆるん

わらぬよ今あるあまあ

あまあまあまあまあ

ゆりあまあまあまあ

ころきあまあまあまあ

新勅
撰一

松のまじりあまのう

あつり神あまあ

うらまじりあまあ

ひらまじりあまあ

とあまあまあ

くあまあまあ

まじりあまあ

新勅
撰二

あまあまあ

あまあまあ

とちい入むはらふあつてもえらるるも
わらぬよもいふもいふもいふもいふも
待らぬいふもいふもいふもいふも
ふかりもいふもいふもいふもいふも

日 来し日ぬいふもいふもいふもいふも

日 来し日ぬいふもいふもいふもいふも

わらぬよもいふもいふもいふもいふも
待らぬいふもいふもいふもいふも
ふかりもいふもいふもいふもいふも
わらぬよもいふもいふもいふもいふも
待らぬいふもいふもいふもいふも
ふかりもいふもいふもいふもいふも

わらぬよもいふもいふもいふもいふも

日 来し日ぬいふもいふもいふもいふも

日 来し日ぬいふもいふもいふもいふも

日 来し日ぬいふもいふもいふもいふも

日 来し日ぬいふもいふもいふもいふも

日 来し日ぬいふもいふもいふもいふも

日 来し日ぬいふもいふもいふもいふも

日 来し日ぬいふもいふもいふもいふも

日 来し日ぬいふもいふもいふもいふも

日 来し日ぬいふもいふもいふもいふも

日 来し日ぬいふもいふもいふもいふも

神の御心はまことの御心

おのれがまことの御心

まことの御心はまことの御心

まことの御心はまことの御心

まことの御心はまことの御心

まことの御心はまことの御心

まことの御心はまことの御心

まことの御心はまことの御心

まことの御心はまことの御心

まことの御心はまことの御心

まことの御心はまことの御心

まことの御心はまことの御心

まことの御心はまことの御心

まことの御心はまことの御心

まことの御心はまことの御心

まことの御心はまことの御心

まことの御心はまことの御心

まことの御心はまことの御心

まことの御心はまことの御心

まことの御心はまことの御心

まことの御心はまことの御心

あひつゝさる路乃娘うまひのやうに
さういふはなむいよむひあつたやう
あつた人乃つと
あつた人乃つと
あつた人乃つと
あつた人乃つと
あつた人乃つと
あつた人乃つと
あつた人乃つと
あつた人乃つと
あつた人乃つと

四

おもしろいおもしろいおもしろい

あつた人乃つとあつた人乃つと

あつた人乃つとあつた人乃つと
あつた人乃つとあつた人乃つと
あつた人乃つとあつた人乃つと
あつた人乃つとあつた人乃つと
あつた人乃つとあつた人乃つと
あつた人乃つとあつた人乃つと
あつた人乃つとあつた人乃つと
あつた人乃つとあつた人乃つと
あつた人乃つとあつた人乃つと
あつた人乃つとあつた人乃つと

四

あつた人乃つとあつた人乃つと

あつた人乃つとあつた人乃つと

あつた人乃つとあつた人乃つと
あつた人乃つとあつた人乃つと
あつた人乃つとあつた人乃つと
あつた人乃つとあつた人乃つと
あつた人乃つとあつた人乃つと
あつた人乃つとあつた人乃つと
あつた人乃つとあつた人乃つと
あつた人乃つとあつた人乃つと
あつた人乃つとあつた人乃つと
あつた人乃つとあつた人乃つと

四

あつた人乃つとあつた人乃つと

うれからくをくうーゆり

旧冬

今も又りうてを復ふ志くれお

いそりゆりゆよまのまのまを

ちうてをまよふ本紫乃時ぬあひのちのち

庭の松風を時ぬよまよふしやをまよふんま

日

まよふまよふまよふまよふまよふまよふ

まよふまよふまよふまよふまよふ

あつらゆのていさりんをあつらうたり

撰集

不入

まよふまよふまよふまよふまよふ

まよふまよふまよふまよふまよふ

まよふまよふまよふまよふまよふ

まよふまよふまよふまよふまよふ

まよふまよふまよふまよふまよふ

新冬

報

まよふまよふまよふまよふまよふ

まよふまよふまよふまよふまよふ

まよふまよふまよふまよふまよふ

まよふまよふまよふまよふまよふ

まよふまよふまよふまよふまよふ

まよふまよふまよふまよふまよふ

まよふまよふまよふまよふまよふ

まよふまよふまよふまよふまよふ

まよふまよふまよふまよふまよふ

撰集
五八

ようしちつよ約うんていもの

法蓮かろの杖の書と蓮乃の

ころころのう縁をころころとせしむるあてして

あつた杖乃書と蓮乃の杖の書と蓮乃の杖の書と

一と我よる法蓮あり一物とくゆらるるゆ

んとつらるるゆのゆらるるゆらるるゆらるる

ゆめらるる人もあつたゆらるるゆらるるゆらるる

いよゆらるるゆらるるゆらるるゆらるるゆらるる

後ゆらるるゆらるるゆらるるゆらるるゆらるる

推多ゆらるるゆらるるゆらるるゆらるるゆらるる

ゆらるるゆらるるゆらるるゆらるるゆらるるゆらるる

ゆらるるゆらるるゆらるるゆらるるゆらるるゆらるる

あつたゆらるるゆらるるゆらるるゆらるるゆらるる

子杖のゆらるるゆらるるゆらるるゆらるるゆらるる

ゆらるるゆらるるゆらるるゆらるるゆらるるゆらるる

ゆらるるゆらるるゆらるるゆらるるゆらるるゆらるる

月乃杖と名のゆらるるゆらるるゆらるるゆらるる

ゆらるるゆらるるゆらるるゆらるるゆらるるゆらるる

ゆらるるゆらるるゆらるるゆらるるゆらるるゆらるる

あつたゆらるるゆらるるゆらるるゆらるるゆらるる

ゆらるるゆらるるゆらるるゆらるるゆらるるゆらるる

ゆらるるゆらるるゆらるるゆらるるゆらるるゆらるる

日林上

くましてやらあひありともくうくまじ
むらさき

はしこころちりあきうらあきとそそ徳林のこ
くまのあひらひりともくまじなぐくくく
くまたり林をぬきかすすくくくくくくく
さりこのむらうらうはむらうのあひあきこく
てあきあきあきあきあきあきあきあき

日

くまじのむらうらうはむらうのあひあきこく
くまじのむらうらうはむらうのあひあきこく

くまじのむらうらうはむらうのあひあきこく
くまじのむらうらうはむらうのあひあきこく

かきまきくぬらうのむらうらうはむらうのあひあきこく

くまじのむらうらうはむらうのあひあきこく

くまじのむらうらうはむらうのあひあきこく

日冬

くまじのむらうらうはむらうのあひあきこく

くまじのむらうらうはむらうのあひあきこく

日秋

くまじのむらうらうはむらうのあひあきこく

くまじのむらうらうはむらうのあひあきこく

海の色は深き處の青は淺き處の淺きなり
海の色は深き處の青は淺き處の淺きなり

荻原秀徳

日秋上 父母無一かあらん

あはれなるはなはた

あはれなるはなはた

あはれなるはなはた

あはれなるはなはた

日秋上 あはれなるはなはた

あはれなるはなはた

あはれなるはなはた

あはれなるはなはた

あはれなるはなはた

あはれなるはなはた

あはれなるはなはた

あはれなるはなはた

あはれなるはなはた

あはれなるはなはた

あはれなるはなはた

あはれなるはなはた

あはれなるはなはた

あはれなるはなはた

けしきよきこの地なるあはれまきし
 毛さびしき木葉のりらさるるいあはれ
 今あらんと
 今あらんと
 今あらんと

同三

こらたけの地なる

此の月よがしき
 此の月よがしき
 此の月よがしき

あはれ

同三

けしきよきこの地なる
 けしきよきこの地なる
 けしきよきこの地なる

けしきよきこの地なる
 けしきよきこの地なる
 けしきよきこの地なる

同三

けしきよきこの地なる
 けしきよきこの地なる
 けしきよきこの地なる

あはれ

けしきよきこの地なる
 けしきよきこの地なる
 けしきよきこの地なる

けしきよきこの地なる
 けしきよきこの地なる
 けしきよきこの地なる

けしきよきこの地なる
 けしきよきこの地なる
 けしきよきこの地なる

けしきよきこの地なる
 けしきよきこの地なる
 けしきよきこの地なる

あはれ

けしきよきこの地なる
 けしきよきこの地なる
 けしきよきこの地なる

けしきよきこの地なる
 けしきよきこの地なる
 けしきよきこの地なる

あはれ

同三

あつたよめは二度末のついでに乃とて
しとちりぬく秀造なり

同雑中

風よさびくう乃とちりぬく
いふとちりぬく乃とちりぬく

こ乃とちりぬく乃とちりぬく

同

山とちりぬく乃とちりぬく
く御いふとちりぬく乃とちりぬく

出終もこ乃とちりぬく乃とちりぬく

同

乃とちりぬく乃とちりぬく
乃とちりぬく乃とちりぬく

こ乃とちりぬく乃とちりぬく

此十巻のいふいふ乃とちりぬく乃とちりぬく
乃とちりぬく乃とちりぬく乃とちりぬく
乃とちりぬく乃とちりぬく乃とちりぬく
乃とちりぬく乃とちりぬく乃とちりぬく

右一冊八段人又の乃とちりぬく乃とちりぬく
乃とちりぬく乃とちりぬく乃とちりぬく
乃とちりぬく乃とちりぬく乃とちりぬく
乃とちりぬく乃とちりぬく乃とちりぬく

拾めく見あふふ

自註

五冊

又明十六年表

宗紙在判

論語集解

魏何晏

二冊

孟子古註

後漢趙岐

七冊

老子古註

魏王弼

一冊

同國字解

東山子

五冊

周易古註

魏王弼

五冊

同 無矣

二冊

同義疏

梁皇侃

十冊

詩經古註

漢毛萇傳 全鄭玄箋

廿冊

同國字辨

田子龍

四冊

拾機算法

鳳岳先生

六冊

南畱別志

物茂卿

五冊

同是正

楚雅亮

一冊

中學算注

青山利水

一冊

倭漢帝王年表

太宰德夫

六冊

田間謾錄

垣内昌輔

一冊

玉山先生

秋子羽

六冊

墨子全書

明茅坤校本

六冊

四書五經字引

一冊

同 遺稿

同

六冊

近思錄便蒙詳說

梁田勝信

廿冊

字彙玉篇大成

一冊

嚶鳴館詩集

紀世馨

六冊

易學啓蒙全解

同

十二冊

詩學小成

千葉子玄

四冊

右

千鍾坊藏梓儒書畧目錄

江都日本橋南一町目

京師柳馬場四條下

須原屋茂兵衛

